

1. 略歴

1997年3月	筑波大学第一学群人文学類考古学・民俗学主専攻卒業
1997年4月	筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科文化人類学専攻入学
2003年3月	筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科文化人類学専攻単位取得退学
2003年4月	日本学術振興会特別研究員 (PD) (東京大学大学院人文社会系研究科)
2006年2月	東京大学大学院人文社会系研究科・博士 (文学) 授与
2006年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助手 (～2007年3月)
2007年10月	東北芸術工科大学東北文化研究センター博士研究員
2008年4月	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科専任講師
2012年4月	東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授
2015年4月	東京大学大学院新領域創成科学研究科特任准教授
2015年12月	九州大学大学院人文科学研究院助教
2017年4月	九州大学大学院人文科学研究院准教授
2018年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

東北アジア考古学、先史考古学、人類環境適応史

b 研究課題

- (1) 東北アジア新石器時代の環境適応形態に関する構造論的研究
- (2) 日露国境地帯の考古学
- (3) 環日本海北部地域における完新世先史文化変遷の通時的解明

c 概要と自己評価

上記の研究課題(1)・(2)に関連して、2018年度から科研費・基盤研究 (B)「東北アジアにおける温帯性新石器文化の北方拡大と適応の限界」(2018～2021年度)プロジェクトを開始した。研究課題(1)では、ロシア国内の教育・研究機関 (サハリン国立大学・ハバロフスク地方郷土誌博物館・ハバロフスク地方歴史文化遺産保護センター等)と連携し、アムール流域・サハリン島の新石器時代遺跡群における国際共同発掘調査を実施した。研究課題(2)では、2019年度から稚内市教育委員会・人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実習施設・サハリン国立大学考古学教育博物館と連携し、北海道宗谷地方における縄文時代遺跡群の実態調査を開始した。なお、サハリン国立大学との共同研究の成果に関しては、2018年に第4回東方経済フォーラム (ウラジオストク) のロシア史学会シンポジウム Historical and recent developments of Russian-Japanese relations: Celebrating 160 years of consular relations にて共同発表を行った。研究課題(3)では、土器出現期～中世の環日本海北部地域における通史を叙述すべく、未解明であった完新世初頭 (新石器時代前期) と紀元前 2 千年紀 (新石器時代/古金属器時代移行期) の中国東北部ーロシア極東ー東シベリアにおける広域編年構築と域外交流メカニズムの解明に取り組んだ。

d 主要業績

(1) 著書

- 共著、福田正宏、『日本考古学・最前線』(日本考古学協会編)、執筆分担:「北アジア」189-196頁、雄山閣、2018.11
- 共著、福田正宏、『農耕文化複合形成の考古学 上ー農耕のはじまりー』(設楽博己編)、執筆分担:「ポリツェ文化の穀物利用と食生活」、71-90頁、雄山閣、2019.5
- 共著、福田正宏、『土器のはじまり』市民の考古学 16 (小林謙一編)、執筆分担:「東北アジアにおける土器のはじまり」、23-47頁、同成社、2019.6
- 共著、福田正宏、『世界と日本の考古学ーオリーブの林と赤い大地ー』(常木晃先生退職記念論集編集委員会)、執筆分担:「アムール下流域における土器出現期と完新世初頭の適応形態」、187-201頁、六一書房、2020.3

(2) 論文

- Габрильчук, М.А., Фукуда, М., Горшков, М.В.、「Исследования поселения и могильника на острове Змеином в 2016 году.」、『Мультидисциплинарные исследования в археологии.』、2018-1、107-113頁、2018.11
- 福田正宏、「日露の考古学について思うこと」、『文化交流研究』、32、17-23頁、2019.3

Masahiro Fukuda, 「Neolithic settlement and pottery in East Asia's northern environment: From the Russian Far East to the Japanese Archipelago.」、『Development of Neolithic cultures and diversity of pottery.』、Amsadong Site Research Series, Vol.3.、157-165 頁、2019.10

福田正宏、「北方—日本考古学と「北方」—」、『季刊考古学』、150、121-124 頁、2020.1

(3) 解説

福田正宏、「デレン満洲仮府はどこにあるのか」、『史学雑誌』、128-1、36-38 頁、2019.1

(4) 学会発表

国際、Kunikita, D., Fukuda, M., Gorshkov, M., Gabrilchuk, M., Endo, E., Matsuzaki, H., 「Dating charred remains on pottery and analyzing food habits in the Paleometal period in the Lower Amur basin, Russia.」、23rd International Radiocarbon Conference 2018, Scandic Lerkendal, Trondheim, Norway, 2018.6.17-22

国際、Fukuda, M., 「Early Holocene human adaptations in the Northern boundary of temperate environment (Russian Far East and Japanese Archipelago.」、23rd Suyanggae International Symposium in Malaysia for the Memory of Late Chairman Joe-ho Kim “Suyanggae & Lenggong: Prehistory Adaptation”.、Flamingo Hotel, Penang, Malaysia, 2018.7.2

国内、福田正宏、「東北アジア新石器文化集団の北方拡大と適応の限界」、中央大学人文科学研究所 国際シンポジウム『東アジア先史社会の物質文化の拡散と環境変動からみた文化史』、中央大学、2018.7.21

国際、Vasilevskii, A., Grishchenko, V., Sato, H., Fukuda, M., 「The stages of settlement of islands of the Far-Eastern Seas.」、International conference “Historical and recent developments of Russian-Japanese relations: Celebrating 160 years of consular relations”.、Far Eastern Federal University, Venue of the Eastern Economic Forum, Vladivostok, Russia, 2018.9.10

国内、福田正宏・Gablirchuk, M.・國木田大・Gorshkov, M.・田尻義了・江田真毅・木山克彦・張恩恵・Malyavin, A.・夏木大吾・足立達朗・太田圭・田邊えり・熊木俊朗、「ロシア・ユダヤ自治州における考古学的調査 (2017・2018 年度)」、第20回北アジア調査研究報告会、愛媛大学、2019.2.23

国内、福田正宏、「サハリン・アムール流域における東シベリア系遺物について」、ヤクーチヤ考古学の最前線、東京大学、2019.3.21

国際、Fukuda, M., 「Neolithic Adaptation History and Neolithization Process in the Lower Amur: Based on results of our Japan-Russia Joint Researches (2001-.).」、International workshop “Investigating Neolithic trajectories in Northeast Asia”, Hokkaido University, 2019.11.04

国内、福田正宏・ガブリルチュク, M.・國木田大・ゴルシュコフ, M.・張恩恵、「アムール中流域 (松花江河口域) における新石器時代の文化動態—ロシア極東ユダヤ自治州における発掘調査成果にもとづいて—」、2019 年度九州史学会大会、九州大学、2019.12.15

国内、萩野はな・福田正宏・熊木俊朗・斉藤謙一・夏木大吾・張恩恵・西村広経・太田圭・國木田大・佐藤宏之「北海道宗谷地方における縄文遺跡群の実態調査 (2019 年度)」、第21回北アジア調査研究報告会、九州大学、2020.2.15

(5) 予稿・会議録

国際会議、Fukuda, M., 「Early Holocene Human Adaptations in the Northern Boundary of Temperate Environment (Russian Far East and Japanese Archipelago.」、23rd Suyanggae International Symposium in Malaysia, Flamingo Hotel, Penang, Malaysia, 2018.7

『3rd Suyanggae International Symposium in Malaysia for the Memory of Late Chairman Joe-ho Kim “Suyanggae & Lenggong: Prehistory Adaptation”.』、34-35 頁、2018.7

国際会議、Fukuda, M., 「Neolithic Settlement and Pottery in East Asian's Northern Environment: From the Russian Far East to Japanese Archipelago.」、International Symposium on Amsa Site, 2018.、Seoul Museum of History, Seoul, Korea, 2018.10

『International Symposium on Amsa Site, 2018. “Development of Neolithic Cultures and Diversity of Pottery”.』、83-88 頁、2018.10

国内会議、福田正宏・Gablirchuk, M.・國木田大・Gorshkov, M.・田尻義了・江田真毅・木山克彦・張恩恵・Malyavin, A.・夏木大吾・足立達朗・太田圭・田邊えり・熊木俊朗、「ロシア・ユダヤ自治州における考古学的調査 (2017・2018 年度)」、第20回北アジア調査研究報告会、愛媛大学、2019.2

『第20回北アジア調査研究報告会 発表要旨』、9-14 頁、2019.2

国内会議、福田正宏・ガブリルチュク, M.・國木田大・ゴルシュコフ, M.・張恩恵、「アムール中流域 (松花江河口域) における新石器時代の文化動態—ロシア極東ユダヤ自治州における発掘調査成果にもとづいて—」、2019 年度九州史学会大会、九州大学、2019.12

『2019 年度九州史学会大会シンポジウム・研究発表要旨』、43 頁、2019.12

国内会議、萩野はな・福田正宏・熊木俊朗・斉藤譲一・夏木大吾・張恩恵・西村広経・太田圭・國木田大・佐藤宏之、
「北海道宗谷地方における縄文遺跡群の実態調査（2019年度）」、第21回北アジア調査研究報告会、九州大学、
2020.2

『第21回北アジア調査研究報告会 発表要旨』、13-16頁、2020.2

(6) **会議主催(チェア他)**

国内、「ヤクーチャ考古学の最前線」、主催、東京大学、2019.3.21

(7) **研究テーマ**

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(B)(一般)、福田正宏、研究代表者、「東北アジアにおける温帯性新石器文化の北方拡大と適応の限界」、2018～

3. 主な社会活動

(1) **他機関での講義等**

非常勤講師、九州大学大学院人文科学府・文学部、2019.12

(2) **学会**

国際、Институт истории, археологии и этнографии народов Дальнего Востока ДВО РАН、学術雑誌編集委員、2018.11～
国内、日本シベリア学会、幹事、2019.10～

(3) **学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員**

国内、西東京市国史跡下野谷遺跡整備基本計画策定懇談会、委員、2018.7～2019.3

国内、西東京市下野谷遺跡整備指導委員会、委員、2020.3～